

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 安藤 梨実 年齢 13歳 職業・学校名 矢吹中学校

私が二年生のときにはこの大きな震災がおきました。私はあんは大きな地震ほど体験した二ヶにはいのとてもビックリしました。あの夜はず、と余震が続くなれませんでした。今でも震えると私たちはあんは経験をしたんだと心から感じます。しかしも、と大変だ。これは、げんばつです。福島県の車両を走っているといつずらをしたり、はなかる人が刈りました。でもじょくがはい。あんは地震はだれにともめられはい。助けを求めてもなく。どうしようにもならはい。でも地震はなぜかこのか?とても不思議だ。地震でいろんは人トラウマになってしまっている。津波で家が流され、死んでしまう人もいる。あんは経験はもう二度としない。そのためには、何をすればいいのだろう?私は震がはくはるニとを願います。しかしそれはニとは無理。でも人の命はなくしてはいけない。そんなは思いを大事にしていきたい。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙
 氏名 沢田葉那 年齢 13 歳 職業・学校名 矢吹中学校

東日本大震災があこったときは、とてもこ
 カか、たです。とても大きくじめんがたても
 のがちれて、ものがおちてきた所もありまし
 た。おばあちゃんもみつかうなくて、ふあん
 になりましたが、いいこの家にみんなしてい
 たことがわがって、とてもあんしんしました。
 しかし、水がとまってしまったたいへんでし
 た。はじめてのたいげんだ、たのでどうして
 よいかわからなが、たです。いまのところは
 東日本大震災のようがことはおきていません。
 しかし、いつくるかわらりません。いつさて
 もいいように、じゅんびをして、たほらかによ
 いと思ひます。ふうこうがすすんだとはいえ
 ませんか、じょじょにふ、こうがすすんでき
 てします。これから日本の日本をすばらしくして
 いきたいです。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙
氏名 石川 優奈 年齢 13 歳 職業・学校名 矢吹町立矢吹中学校

私は東日本大震災があつた時、学校で帰るのにいつもは歩いている時だ、た。少しゆれておさま、たので外に出ると、学校の先生に外に出てしゃがんでて」と呼びかけられたのをし、かり覚えている。てば少しひそ先生が出てきて校庭まで誘導された。それから、隣でいた友達や担任の先生と合流し向かえの人をま、ていた。ほかほか来なか、たので、先生が毛布を持ってきてへんてみんなでくまとていた。その時、私はとても安心していた																			
◇ ◇ と思う。それから結局、幼なじみのお母さんはおく、ていつてもり、た。																			
家族の顔を見るととても安心して、その日はすぐ寝てしまった。																			
私はひとりの体験をしてもうこんな体験をしたくなないと、た。しかし、テレビなどを見ると私よりも苦しかったり、つらひ人が多いと思うと、とても心が痛んだ。																			

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙
氏名 大木 萌美 年齢 13 歳 職業・学校名 矢吹中学校

三月某一日にあつた大地震のとき私のクラスは、帰りの会をやっている途中でした。そのときの教科書は二年生だったので担任の先生が口を開けるとかおから口を開けねばはうがいいとか頭を机の下にちゃんととかくしてとかおはしもよをおもいだしてなどと言ってくれました。おはしもよのおはしおさないことは、はしらなーいは、しゃべらないものは、もどらないよは、よくきくです。私は、そのおはしもよをおもいだしながら廊下をはやあるきをして外にいきました。これが私の体験です。

そして復興への想いです。まだほんのうでいけてないところがあるのでそこにいけるようにしたのです。でもいけるようになるには、一〇〇年後や二〇〇年後もしかしたらもっとかかるかもしれません。それでもいけるようにしたのです。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 面川瑛捺 年齢 13歳 職業・学校名 矢吹中学校

私は小学校二年生の時に東日本大震災を経験しました。地震が始まるとたまたま私は教室にはいました。避難訓練を毎回出してましたが机の下に隠れたのですが想像以上にゆかが大きくなり、机を動いてしまった頭の中が真っ白になりました。でもまだ先生と一緒に担任の先生がいたことに声をかけられて山本君でした。																			
「大丈夫だよ」「先生がいるからね」とその言葉があたせられました。この震災を今に残して田山君です。																			
避難後、同級生もみんな無事だったのです。我が家にいる家族はみんな無事なのかな不安で仕方ありませんでした。家に帰ることなんかないたのびやつともうなっていました。																			
今は震災が起きてから約四年が立ちます。たまたま今でも復興のためにたくさんのお名人が来てくださいました。たまり支援してくれたところの支えのおかげで今の福島があるんだが、私は田山君です。																			

(20文字×20行)

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 篠子梨穂 年齢 12 歳 職業・学校名 矢吹中学校

私は、十三年間でいろいろな体験をしてきました。その中でも、恐かったのは、3.11の東日本大震災です。私はあの時まだ、小学2年生でした。学校から帰って家で宿題をや始めたようとした時、初めて地震というのを経験しました。最初は木で揺れで、そんなに気にしていませんでした。しかし、時間がたつごとに揺れが激しくなって、私は自分の身を守るために精一杯でした。揺れがおさまってテレビを見てみると、地震速報がほんとうでした。地震だけではなく津波の被害をうけた人もいると知って、私が住んでいる矢吹町は、海が近くになくてよかっただなと思いました。しかし、水がでなくなり、近所の人たちたくさんお世話をかりました。水をもらったり食べ物をもらったりと…。そして、入りの助けあいで人は生きていけるんだなと感じました。今もまだ、行方不明の人がいるので、その人のためにも、今できることはあきらめずに努力していきたいです。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 小松 莘生 年齢 13歳 職業・学校名 大吹中

東日本大震災は私が小学生2年生の時にありました。																			
東日本大震災は、私たちが帰りの会を進めていた時に私たちがおこなっていたひがしがおこりました。最初は、何が起こったのか頭の中が二んらが、こもしました。そして先生の話を聞いておらずく机の下にもり自分で命を守りました。そして机の中にもり、でちとしてから放送があり、放送のいう事に従って校庭に出ました。時間がたててもじんさんたちがまづらが隣のおおかえをねたちはまざった。私は友達の車に乗って家に帰りました。そして私は家に帰ってからやがて家に帰る時、心配しました。私はやがて出来事を降り返しておこなうとしていました。そして今も安心しておこうとしているところが怖がります。でも、この東日本大震災がおきて怖がったのもあります。だから人の人生の調子の方も何一つはこの震災で済ぶ事ができました。																			

(20文字×20行)

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 鈴木 貴 年齢 13 歳 職業・学校名 矢吹町立矢吹中学校

今年で、東日本大震災から5年がたとうとしています。私が2年生の頃に地震がありました。まだ小さかったので、どのようにかわんぱか分かりませんでした。ただゆきでいることだけが分かっていました。その夜テレビをかけて見ると、地震のことしかやつていませんでした。津波にのみ込まれてなくなり、人がたくさんいました。津波の映像は今までもは、ヨリと覚えています。決して忘れないことはできぬないと感ります。

◆ ◆ ◆

あれから、5年がたとうとして石今。震災の時より少し遅づつ復興させてきています。震災前のようにきらいにはならないけど私は、今少し遅づつ前に歩み出しています。震災当時と今をくらべてみるとすじく復興させてきました。時に辛いこともあるけれど毎日笑顔のたまはい毎日です。

私たちちは今、未来に向かって歩みたして、る最中です。今後も、未来に向かって全力で歩み出します。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 須藤 さくら 年齢 13 歳 職業・学校名 矢吹中学校

「え、揺れてる？」そうつづいた瞬間、今までの小さな震動が、体験したことのないくらいの、とても大きな揺れに変わった。私と母は、あまりの恐怖で足がすくみ、避難が遅れてしまつたが、揺れが小さくなつたのを計はからうて、必死に外へ逃げた。家の前の道路には、近所の人たちが集まつていて、私は、大変なことが起きたのに」と実感した。家のすぐ近くに、丈夫で避難によく適した地区集会所があつたことは、不幸中の幸いたつた。避難所で過ごしたあんなに長いと感じた夜は初めてだった。それからは、現在通っている矢吹中学校の体育館で生活した。学校にも行けず、外出を禁止され、本当につまらない日々だった。テレビでは、同じCMが延々と流れていた。今でもそのCMを見ると、当時の辛い記憶がよみがえてくる。

これから日本の日本を担う私たちは、5年前の被害を決して忘れない、今しかできない事を精一杯取り組まなければいけないと思っている。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 館下二十 年齢 13 歳 職業・学校名 矢吹中学校

私が震災を体験したのは、小学2年生の頃です。毎月11日の帰り道、友だちと一緒に帰ります。ある時、「電柱が倒れています」と友だちが言つた瞬間、大きな地震が来ました。今まで震災を経験していなかつた私は、地震のやれや収まるときぐに走って家まで帰りました。家に帰ると、部屋の中はぐちゃぐちゃでした。それから数日後、テレビをつけると、ニュースばかりやっていたしました。津波で何十人の人が行方不明、七日、たりしていましました。ニュースの中でも印象に残ったのが、「福島の米は原発で汚れていた」というニュースがあり、たのをよく覚えていきます。同じ日本なのに、同じ人間なりに、差別があるのだろう、「原発」という言葉一つだけでもこんなことになるのだろうと思いまして。

私の想いは、いじめや差別などではなく、皆平等に暮せる日本であつてほしいと、震災を体験して感じました。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 仲西 遼香 年齢 13歳 職業・学校名 矢吹中学校

わたしは小学2年生のときに震災を経験した。このときはとても泣くて、みんな涙を流していました。でも、まだ幼かっただれたらしくて、日本全国でそのとき、何が起こったのか、理解できず、せまりくる恐怖におびえていた。中学1年生になつた今では津波などが多くさんの人たちが亡くなつていたことを知つた。他にも、放射線の影響でふるさとを離しなければならなかつた人もいた。わたしたちの住む矢吹町はそこほどの被害は出なかつたものの家の壁にひびが入つたりした。震災から54年がたつたが、人々の心の傷も震災が残した悲しい過去も決して消えたりしない。でも、過去のこと心に止め前を向いて進んで行こうと思う。そしてこの震災でやつたことが学んだことを後世に伝えていくことが大切だと思う。

氏名 中條 文乃 年齢 13歳 職業・学校名 中学生、矢吹中学校

早く逃げて。

あんなに必死な顔をした先生を見たのは、生まれて初めての事でした。当時2年生だった私は、何が何だか分からず、座りこむ事ができませんでした。でも、その時に先生が私の手を、優しく、そして強く握ってくれた事を私は忘れる事ができません。

2011年3月11日。家族の誕生日という事もあって、非日常的な事が起るなど想像もしていませんでした。あの日から、5年近くが経つ事も、今更信じられません。私があの日から成長した分、福島もきっと復興に近づいていると中学生になったからこそ感じられます。私が大人になつてからも「被災地・福島」のイメージが消える事はないでしょう。だからこそ「福島」の名を胸を張って言い、復興に貢献したいのです。そして、何十年、何百年後の人達に東日本大震災を伝えていきます。みんなで手をとりあって、復興を目指し生きていきたいと思います。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 前場 美優 年齢 12 歳 職業・学校名 矢吹中学校

私は、小学2年生の終わりに東日本大震災を経験しました。放課後、児童クラブで仲良しの友達と一緒に遊んでいたときでした。まだ小さい頃だったので、何がおきたのかなかなか理解することができませんでした。でもたまたまこの方が、たというのは覚えていました。

私は運がよかつたんだと思います。あの日を境に時間がとまってしまった人もたくさんいます。私よりおさない子でも。だから私は、そのせくなってしまった人の命と想ひをかけ、して無駄にするこのはないように、これからも一生けん命に生きて生きたいと思ひます。

人の命も背がうと云うわけではなけれど、あの日から時間が止まってしまった人のためにも、背中を押してもらつたと感じて、私たち生きていかなければいけないと覺えます。

自然のことだから地震をなくすといふのは、これから先も絶対に叶えられないと思ひます。だから、それはしかたない。でも、前を向いて歩き続けることは必ずつけてくると思います。

氏名 小林 瑞姫 年齢 11歳 職業・学校名 石狩第二小学校

わたしは、今、何事もなく過ごさせています。

ただ、わたしの家の近くに、じょせん作業員の方の宿しゃが建つので、何か大きな犯罪が起きないかが、心配です。最近、南相馬市内でも、じょせん作業員の方が、犯罪を起こしているので、ひ實に合わないか、正直、不安です。また、復興が進んでいいな。と思、下
 一交流一
 ところは、地元の~~ふれあい~~の場が増えていい
 とです。もっと、~~ふれあい~~の場を作ってくれたら、市内の結びつきが強くなり、公園等、
 体を動かしながら、交流できる場所を作れば
 ひ満予防になると思います。

今後は、一刻も早く、復興を進めて、地元の交流の場を、南相馬市内だけではなく、福島県全体に広げてほしいです。また、かせつ住たくでくらす人々へのサービスをバラエティを広げてやってほしいです。震災のえらいようで苦しむ人たちを一日も早く、救ってほします。

氏名 合山 修司 年齢 11歳 職業・学校名 石神第二小学校

今の大震災の今後進むべき未来は、震災前に同じくからい活力にかられて、あの東日本大地震や大津波のような災害なども負けない、福島県民の木もが寧として暮らせる、明るい未来に向かって進んでいくべきだと感じます。

よく「お前ア復興の意味を説いたい」とおとおさんたちのが、こたちはやかんに大なり。また、やかんにすることなく書いてあります。しかし、つまり、明るい未来へ進んでいくためにには、人々でござわい、災害などのひとたびに立ち向かう精神を磨き上げなくてはなりません。

ぼくは、これからいいように勉強して、将来は立つ上うやうやしく、社会に貢献する人間になります。

「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

氏名 森 洋斗 年齢 12歳 職業・学校名 石神第二小学校

ほくがしん父から感じることは2つあります。一つ目は、スポーツ環境が充実してないことがあります。ほくは今は、原町の行政チームに入っています。なかなか外での時間がうまくできせん。それと、もう一つ福島県をスポーツでさかんな県にしたほうが良いと感じます。福島県の運動能力テスト（体力テスト）の結果が福島県は良くないと先生から聞きました。なのでスポーツをさかんにしたほうが良いと思ってます。それにスポーツ教室などもできるといいと思います。この前ほくはアシックスの野球教室に参加しました。そこからほくは1313なことを学びました。野球の技術以外のことでも学びました。このようにほくはスポーツをさかんにしたほうが良いと思いま。2月には、今の復興状況を伝えします。とても安心して暮せないくらい少しは安心して暮せます。ですがほくの学校の人数は260人。1年前は560人くらいでした。もとつてくるようになりますが、なんかも願いしたいです。

匿名希望

東日本大震災が起きたとき、ぼくは、小学校1年生でした。地震の揺れが大きくて、びっくりしたけど、すぐおさまるだろうと思いました。先生の指示でつくえの下にもぐり、あとは、火難訓練のように外へ出ました。外から校舎を見たら、大きくゆれていて、さてそこやがたのを覚えています。あれから、もうすぐ5年になります。いろいろなことがありました元にもどってきましたが、津波が来たところや、除染作業を行つたのは、まだ。また時間がかかると聞きました。ぼく達が経験したこととは、絶対忘れてはいけないことがあります。あと、全国から、支援物資をもらったり、お手紙をもらったりおれ(か)たので、恩返してきるような大人になろうと思します。そして、いっぱい恩を返していくのです。なので、そのためには、いっぱい努力をしておうと思います。

匿名希望

主に、東北地方などをおもった、僕にとっての人生初の経験、「東日本大震災」では、だれもが予想もしてなつほど大きな地震、津波で數えきれないほどのたくさんの人人が犠牲になつた。非常に大きかつた災害には、人々もびっくりしたと思ふ、僕にとっては、その当時、あまり気にはしなかつた。しかし、今まで一緒にいた友達とも、はなればなれになり、悲しみでいつも涙になつたときもあつた。さうに、原発が、。。人々も差しめられ、生活がきびしくなつた中でも、人はひなんするばかり。もし、これからもこのようなことがおこつたときのために、食料、電気、毛布などの用品をそろえ、いつでも備えておくべきだと考える。自分たちには、環境をよごさず、人々が気をつけ、これから歩んでいくべきだと思う。それに応じて、原発設備の点検し、きけんなものがあつたらすぐ取り立てるなど、していくべきだと思う。そして、人々は、忘れてはいけない出来事だと僕は思う。

「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

匿名希望

震災からもう約5年がたちました。そのときぼくは日直でした。帰りの会?をやつている時に、ケラグラムと教室、学校全体がゆれてスポーツのお湯かトバシャーンと落ちたりして大変でした。まだトイレに残っていた女の子を先生が、「○○ちゃん、早く机の下にかくれなさい!」と言ったのもまたしっかり覚えています。

今の復興の状況

まだ修復されていないところもありますが、道路や施設、交通面などのインフラ復旧は早く進みました。これからよいよ仮設住宅に住んでいる約10万人の方の住まいの移行が始ままり、まちづくりが本格化しきっています。ぼくは、復興支援の人達にとても感謝しています。なぜなら、今ぼくたちがこうしてふつうの暮らしができるのは、支援があるからこそだからです。遠くに行っている友だちも、早く南相馬市に帰ってきてほしいです。震災は、もう二度と経験したくないです。

(20文字×20行)

署名希望

3月11日の東日本大震災が起きたことは電気や水があまり侵入せずラジオなどで状況を知ったりしていました。ですが、いろんな人のおかげで復興することができて現在に至ることができました。しかしまた復興していくと今も少しもあると思うのでそこも力を合わせて復興していくと今よりも、もっといい生活ができる人が増えていくと思います。そのため、ほきんなどをするきっかけがある時は、しっかりとほきんするべきだと思います。

ぼくは、今後進むべき未来には福島の人があわせでいろんな行事がもう一度苏こなわれると言ふことだと思います。

それで、ぼくは将来きっかけがあれば復興に力をかけてくれた人にあれを言いたいです。だから、ぼくは、学校でほきんがあるときはできるだけほきんをし、今までいる人の方にひらくてこまつている人を助けてあげたいです。

「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

匿名希望

震災の前後で、一番変わってしまった悲しい事は、友達が減ってしまいました。たということでぼくは思っています。ぼくの学年は二クラスだ、なのに、二クラスになってしまいまして。たとえばいいなあと思います。早く友達がたくさん帰ってきて来てくれると良いと思います。そのために、除染作業を早く進めて放射性物質を少なくしたり、今やつていい店を再開すれば良いと思います。楽しく遊べる場所をあると良いと思います。安心して、楽しく過ごせるとよろしくれば、ひなんしているたくさんの方の友達が帰ってきてこれるんじゃないかと思います。

もう一つ気になっていた事は、通学路から見える所に白いかべで囲まれた復置場所が出来たことです。ぼくはそれを見ると、病気になってしまふんじやないかと思つてこわいのです。早くなくしてほしいです。

こわいなんて思わず、友達とたくさん遊べるようになれば良いなと思っています。

「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

匿名希望

震災で、多くの人が遠くに引っこじて、もどってくる。自分は、すうと京都にいたのではなくわかりませんが、今の学校の外人はそれを通りこえているかのように、笑顔で満ちたりています。震災は、ちがえもありまが、出会いもあります。震災があつたらこそ、今を生き、今をがんばらなくてはならないかもしれません。

今この地域では、多くの人の意見を取り入れることが必要なのがもしれません。そうすること、国はなりたっていき、震災がまたおこってしまっても私たちがおれる社会になつていくのもしれません。そのために、一人一人ができることを考え、少しずつ築き上げて、その努力が幸福で満ちたりた未来につながつていくのではないかと思う。たくさん①いのちを守り、すばらしい社会をつかみ、世の中を安定させていくのだと思う。震災の経験が、人々を助け合い、一つ一つの尊い命を守り、育て、はぐくみ、歩んでいくのだと思う。

匿名希望

東日本大震災が発生したときぼくは、被動的になりました。どう思いました。「これからどうなるのだろうか、ものすごくこわい。」と思っていました。

2年生になりました。ぼくが通っていた学校の地域は、放射能が高いため鹿島小学校の仮校舎で学習をしていました。夏の暑い日、ぼくは会津に天にさしてしまいました。仲良しだった友達との分かれは、とてもつらかったです。

会津の小学校生活一番の友達も作って毎日楽しい学校生活

4年生になりました。初めての宿泊学習トライアルなども会ったけど楽しかった。

5年生になりました。とうとう南相馬に帰る時が来ました。さびしこにぼくは、友達と一緒にしまいました。

未来に向けてぼくは、こう思います。復興が終わり福島の一人一人が豊かなくらいと笑顔があるといいて思います。

匿名希望

震災から今に至る状況は、震災が起きた前は、お店などの営業時間が長く例えば、ショッピングモールなどもお手頃な時間まで営業していたためよるなどに急に使いたくなるものや、今すぐに使いたくなるものなどを買いに行けたりしていたが、震災が起きてからはショッピングモールなどに必要なものがきて物を買いに行こうと思しても今は、とてもショッピングモールなどの営業時間が短くなってしまったため、急にほしい物ができた場合でも、すぐに買いに行けなくてとても不便な状況です。

今後、進むべき未来はたくさんあるけれど、ベントなどを行って他県の人々にも福島県のいい所などをし、てもらったり、ひなんしている人たちにも、福島県にもとめてきてもらったりして、福島県の相馬市の人に増やして相馬市で飲食店を増やしてショッピングセンターなどの営業時間のはばして不便をなくしていくことこれが彼らの未来につながる。

匿名希望

東日本大震災。あの時から時間は止まつた
きました。あの地震の影響でおきた津波は
福島、宮城、岩手の3県に甚大な被害を及ぼ
した。津波は、建物ももちろん、人の尊い命
をも奪っていく、それにどこまでも進っていく
る。高台へ逃げなければ、のみこまれていれば
は一つの命が消え、2つ、3つ…と。

それから、4年が経つが、今は特に大きな
地震はないし、食事も苦しい状況ではない。
学校にも登校していて、除々に震災前に戻
てきている。

今後は、この震災を忘れてはならないし、
今、自分達に力にができるの方を見直し、来
世に産まれてくる子供に伝えていく、将来、
この世の中で役に立つ人材になつていければ
いいと、僕自身はそう思いました。

この震災は、将来の子供達の仕事面、人間
関係、生活面などのいろいろな面で、影響し
てくるのではないかと思いました。

匿名希望

僕は二年生の時に山形県へ避難し六年生に
はった今年の四月にこの福島県へとどきました。
た。僕は不安だった。なぜなら福島での学校
生活より、山形県での生活の方が長かったから
である。やはり四年というわざが月日で
もそれは僕にとっては大きな壁だ。だが、
が、そんな僕を皆はあたたかく迎えてくれ
た。また当時の爪痕が残り昔のようないまや
が町に戻るまではじ遠い地域もある。

原発による放射線の影響で僕たちの屋外運動
が制限され、運動能力の低下や体力の低下が
ともない、運動能力、体力共に、今では、日
本全国の中で最下位といつても絶望的な
状況にある。放射線とは、ウラン・ラジウム
などの放射性元素が、こわれるとときに放出さ
るのでアルファ線、ベータ線などがあり浴びす
ると体への害をおぼほすものです。僕はこの
の状況を解決するためには多くの人間を派遣
し、被災者との連携を行なうことが、大切だと
思います。

「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

匿名希望

震災前は自然豊かで遊ぶ所も多く、平和な日常でした。あまりへんな人もいなし、犯罪をおくす人も少なかつたのにそういう人が増えて少しこわいと思うときもあります。

自然で遊ぶ所も少ないし、開いている店も少なく、品ぞろえもわるいです。

避難している間、私は1年でおびえながらいました。地震が来るたび、泣きそうなくらいこわくて、家族とおびえていました。

今思うと二度と起こってほしくない、と願っています。

今は平和で幸せです。でもこれから復興に向かって自分にできること、たとえば町のゴミを拾い環境を良くし、人が気持ちよく住めるようにしたり、みんなできること、たとえば、あまり店のない所に店を建てて、人の生活に役立てたり、品ぞろえを良くするためには、今は取り寄せなどができるので多めに取り寄せたりしてみんなで復興に向けてがんばっていこうと思いました。

匿名希望

私が小学一年生のころのことです。あの時の記憶は、はっきりおぼえています。急にじんがおき、とてもびっくりしました。ですが、冷漬になり、机の下に頭をかくし、しばらくたちました。一回目は、あまりゆれをかんじませんでした。なので頭を上げようとしたしゅん間、またじんがきました。回りのみんなは泣いていました。まだ一年生だ、た私は、どうすることもできずに困っていました。その時、先生が

「おちついで。机の下にまだかくれてて」と、言い私は、安堵しました。

それから年ヶ月、上東野小学校に行き、少し忘れませんでした。給食をおにぎりなどでした。ですが、少しずつ忘れてていき、一年をすごすことができました。とてもうらが、たです、でも、友達や家族が支えてくれて、石神にどまことができました。なのでよが、たです。また、このことから私はいいくんは、あ、てはならぬものだと思いました。

「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

匿名希望

震災があった時、私は11年生でした。これから早くて早く復旧とまいました。やがて仲良くなってきた友達とはなれて私は親せきのいる白河にひなんしていました。車両基地にも行ってくると、たまに歩くテラスにはありました。数日間は、十階にみんな集まってねていきました。ときどき、じんかすきうと、すぐに宿とあけて、夜にもなければといてのくりかえで外縁でいました。私の東日本大震災からの復興の想いは、まだ、もぐれなくてこままでいました人たちに話を聞いて、話して、少しでもこままでいる人たちの人ためにはることを一人一人がいいにしあうことが私の思ってます。たとえば、募金をして、あつまつたお金で、こままでいたたちのやくにやくことをするべきだと思って、まずは、その震災で遊べない子供たちの遊び場をつくって、運動をするべきです。私は、今まで、いろいろ人のやくにやくことを、願って、ます。

匿名希望

震災前は、みんな笑顔で自然豊かでした。だから、夏は海で遊んだりと外でたくさん遊んでいました。友達もたくさんいました。

しかし、2011年3月11日にとんでもなく恐しい事が起きたのです。私はその時、1年生でした。その時はまだ幼かったのでどうぶつと全く分かりませんでした。

私は、初めてに南会津へ避難しました。多くの友達とはがれてしまい、とてもさびしい毎日でした。次に秋田県秋田市に避難しました。

学校もかようこそができ、新しい友達もできました。とてもうれしかったです。

そして、3年生の時に私のふるさとの福島県南相馬市に帰ってきました。なつかしい学校にかよい、なつかしい友達にも会えました。でも、人數は前と比べて少なかったです。

これからは、今の若い人たちが日本を受けつき、3月11日で学んだ事を生かして、これから日本の日本を平和で満ちたとしてもステキな国にすることが一番大切だと思います。

「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

匿名希望

東日本大震災から約4年と9ヶ月がたちました。今私は6年生なのでその時はまだ、1年生でした。あの日のことを、まるできのうのようにおぼえています。あれから、もう4年がすぎたんだと思うと長かったような、短かかった、のような気がして、少し不思議でした。4年間でここまで回復できるとは、思っていませんでした。震災前とほほ変わらない風景で震災なんて最初からなかったのかなと、何、思ったこともありました。それくらいみんなの心の中では協力して進んでいくこうと言う思いが強いのかなと思いました。今後もこの思いで進んでいけば、忘れてはいけない事でも苦めてきたものを忘れてもいいのかなと思いました。東日本大震災があったから、苦められたのかもしれないけど、この苦みがあり、だから協力してここまでこれた事実はまちがいなくこの先すと語りつかれていくのだと思います。私もみんなと協力しながら未来をつくっていくこうと思いました。

(20文字×20行)

匿名希望

私が1年生のとき震災が起きました。そのときは3クラスだ、たけど、2年生で学校が始まるごと、1クラスになっていました。人数も少なく、給食は、おにぎりと牛乳でした。3年生から6年生になるまでの間に、たくさん友達がもどって来ただけど、仲良しだ、友達はまだもどって来ません。4年生からは2クラスになっただけど、クラブは、人が足りなくて、なくなるクラブもありました。全員がもどって、あの時のように楽しく遊びたいです。中学校の部活も、人が足りなくて、なくなってしまう可能性もあります。私が希望している女子バスケは、今の6年生の中では、あまりいません。もしかしたら、廃部になってしまふかもしません。

今後は、人がたくさんもどってきて、前のような地域の行事に参加したり、部活がなくなったりしないようになってほしいです。まだ前のようにはなりませんが、少しでも近づけるように復興を進めてほしいです。

匿名希望

わたしは、東日本大震災のときは、山形の大震災とのようなくま山地震があつたので、山形でも大き地震があったので少し分かりました。

私のおはあちやんといどこは福島にいたので、大きい地震があつたことは分かりました。山形でも大き地震があつたことは分かりました。

おはあちやんたちと同じく山地震を感じましたそして今は、子どもも、大人もあまり商店や学校、そしてようち園などは、あまりや、アリないところが多いので、学校などがもとにもどり、てまじり始め。

そして私の家の近くにあつた商店や、アパートなどは少しあり、商店にやめてありますので、家の近くにお店があるからといって喜んでいました。

そして私は近くに西神第二小学校がありますのでとてもよかったです。

「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

氏名 高野 珍実 年齢 12歳 職業・学校名 石神井第二小学校

東日本大震災がおきたのは、私が小学1年生のときでした。

2時46分。あの、おそろしいほど大きな揺れはすごくこわがったです。校舎へとひんしして、おばあちゃんと一緒に家へ帰りました。家へ帰ってもよしんは続っていました。家中を物がたおれて大変なことになってしまいました。

11日は、家にとまり、12日の夕が大福島市にある中学校の体育館で1泊しました。

14日の夜、相馬にあるおばあちゃん家へ行つて、半年間お世わになりました。私が2年生の夏に新地の仮説へ行き、4年間お世わになりました。ボランティアの方々もたくさん来てくださいて、私達を楽しませてくまました。そして、今年の6月23日自分の家へどつてきました。

今は、除染作業をしてくれてありがとうございます。ですが、1部の方がやってしまふた、事件もあるので少し心配です。

匿名希望

私は、震災当时、小学1年生でした。

今まで、経験したことのない地震の怖さを体験し、今も鮮明に覚えています。

命の尊さも知りました。

震災前は、近くに親せきやお友達がいるのが当たり前と思っていたのが、震災が起きた事で、はなれてしまい、とてもさびしく思いました。そのさびしさは、今でも続いています。この震災は、貴重な経験となり、ひなん先では、家族やお友達の縁を感じた事や、多くのボランティアの方々や地域の方などさまざままな支援をしてもらったり、交流をする事によって、世界の人々との縁を感じる事ができました。そして、あれから5年がたちますが、1日も早く、仮設から我が家へ、田畠など作れる環境になり、以前の明るい暮らしができるのを願っていると共に、また同じような震災が起きた時、今度は自分が支援して行きたいと思います。一人でも多く笑顔が戻せるのなら、こんなうれしい事はないからです。

匿名希望

私は震災当時、福島がまさにおちいり、ている
ということは全く分かりませんでした。地震
や津波だけにあられてもう1ヶんのこと
は知りませんでした。でも今、あのときを
ふり返ると、いろんな物をもらったり、アーティストの方々応援しに歌いにきてくれたり
して、とてもめぐまれていたと思います。
震災にあ、たことは不幸だけど、みんなから
応援してたら、て、世界や日本の各地と
とてもいい仲になるき。かけたら、たと
ます。

私は、震災がおきたとき自童館でいました。
震災がおこ、て私は、とても泣かってたけど
泣くないといいは、ていきました。そして、
窓のむかえます、しているとき、おかえが、お
そくて、このままおかえかこなか、たら、と
うしようと、大きさをおぼえています。
この震災で亡くなった人が亡な、たけ
ども世界中のおかげでここまで福島が、復興
できたのでほんじに感謝だと思います。

匿名希望

私は震災のころはまだ1年生でよくおぼえていませんが、大人の人たちの話で木更津これが起きているということだけはまだおぼえていました。私は地震が起きる少し前はじっくり行っていて家に帰ろうとしたときにじぶんが地感をあさりびきました! 姥や奥婆さんはおぼえではなかった私はあくとまでもうなれ親しかったこの町に戻れないと聞いて時、まだこどものこりたれで思いました。四年生にはまだおじとおばは人ずつと戻りたいなとおもいつけて。私が立派な人間になりました。私は今せでありますけれど復興ひでまぬ自分が往んでいた町に戻りました。私は復興ひでますぐてもとばえ火とおはうきのせんが復興したらまたまた前のよろな生活をしたのです。私以外にもたくさん的人が復興してほしい、もとの生活にもどりたいと思っていふのはすです。そんな人たちのために私は早く復興してほしいです。

匿名希望

私は復興に対する想いが2つあります。

1つ目は除染作業についてです。放線から影響を少なくするために除染作業員の方々が毎日作業をしてくださっています。県外からも福島のためにと作業してくださる方がたくさんいます。作業をしてくださる方々には感謝をしていますが、除染作業の人による事件がたくさん起きています。他の人たちにたよらず、自分たちでやることも大切だと私は思います。

2つ目は、津波被害の起きた区域についてです。津波で被害の起きた区域では、家がごわれ、まわりは草だらけ、そして重機がたくさんあり、とても住めるような場所ではないと思います。ですが、その中にも、住んでいいなれたところに戻り住みたりと住んでいる方達もいます。そんな人達のためにも、大震災のようなことが再び起きても、その区域を守れるようないっぽうをつくることが大切だと思います。これが私の復興への想いです。

匿名希望

私が思う復興とは。

私が思う復興とは、たやすくあります。

まず1つ目は、帰宅困難な人区域になってしまった所に以前まで、住んでいた人々は、家に帰れないってしまったことにどうぞ、なので、早くその人たちを家に帰るといもらいたいことです。そのためには、じよせん作業をしていただいてもらいたいです。(ふたくことなし区域)

二つ目は、震災ではなればなれになってしまった犬や猫たちを一刻も早く、飼い主のところに連れてこつてあげることです。

そのために、かせつにいる人たちを、家に入れることがあります。そしたら、犬や猫とまた、しゃべらすことをできることです。

復興は、災害があるから復興というものがありません。災害は、復こうがあるから災害はありません。

匿名希望

震災の日は、私は小学1年生でした。今でも忘れられない震災の日です。

震災が起きてすぐひなんすることになりました。祖母の家に行き、さらにまた遠くへとひなんすることになりました。私は知らない土地で生活することになりました。お母さんは仕事のため南相馬市に行く事になり、はなれて生活をすることになりました。知らない学校と知らない人たちとの学校スタートが不安で泣いていたことを思い出します。

少しずつ慣れてきた学校生活だったが、また南相馬市にもどることになりました。不寧になりましたがもどったときには、3クラスあったのに2クラスしかなく、人が少なくなっていました。でも1年間いっしょに学校生活をおくった人もいたので、安心し、学校にも慣れています。震災から5年が向かえようとしています。

今後あの苦しい震災が絶対にならないことを願いながら、自分の進むべき未来へと進んでいきたいと思います。

氏名 藤日南 年齢 12 歳 職業・学校名 石神第二小学校

東日本大震災が起きた直後は、津波によりたくさんの方が亡なりました。たくさんの人が家族や家を失い、避難所での生活が続きました。そして、その避難所では多くのボランティアの人によるたき出しが行われました。さらに、避難所への支援物資が日本各地から届きました。被災地では自衛隊による救命・救助活動が行われました。

そして、現在は、仮設住宅や復興住宅の建設が進み、不自由ではありますが、生活はできています。しかし、まだ立ち入りが制限されている、田村市・浪江町・飯館村などの12市町村ではまだ、自分が住んでいた家に戻ることでさすがにいます。私はこの地域の除染作業を進め、12市町村が震災前のようになるとたくさんの方で行きわい、人と人とのコミュニケーション、ニケーションを取れるところに戻していけたら良いなと思いました。また、大きな震災が起きたときの避難の仕方などを家族と確認して、災害に備えていきたいと思いました。

「東日本大震災からの復興への想い」応募用紙

氏名 今木佳菜 年齢 12歳 職業・学校名 七神第一小学校

私が想う今の福島県の状態は、復興が遅れ
ていて、漁港、大島、高岳、双葉などまだ放
射線が高く漏りでてこそ、帰れない人が多く
さんいます。約5年たった今も、今まで仮設
で暮らしといふ人が多くなっていて、他にも、
多くの地域に逼迫していくとその生活にまだガ
ルといひ人は少なくておりません。
仮設にいる人のストレスなどが多くあります
のも復興住宅を早く作り、仮設にいる人や
津波で家が流された人などを復活時にすみや
かに早く進めてもらいたいです。

私は、これが福島のことらしいと想います。
じめは人がなくなり、だれも仮設居住者に
すら二ヶ月、今まで、放棄地をまことに
いて、公園などの外ではあまり遊べなくな、た
けれども、元気に外でみんなと一緒に楽しく遊んで
いき未来を想像しています。

復興は、まだ歩みが浅いけど、震災
前よりも豊かな安全で明るく笑顔で給元気い福
島県にならこみたいです。

氏名 佐藤 実紗 年齢 12 歳 職業・学校名 石神第二小学校

震災から3年と9ヶ月が経過した今でも、完全に復興が進んでいるとは言えない。震災から今に至るまで、さまざまな問題が起きた。例えば、病院やお店などの人手不足だ。震災や原発事故が大きく関係している。原発事故による放射能汚染で、さまざまな地域が被害を受けた。それにより、病院やお店などの人手不足が発生した。その他にも、外で遊べなくなったりなど、まだまだたくさんある。

しかし、悪い事ばかりではない。ボランティアで来てくれた人達と交流したり、子どものはばさで、長野県・静岡県・山梨県に行かせてもらい、地元の小学生と友達になることができた。震災後、前向きに考えることでさなかったが、そんな全国の人達から元気と勇気をもら、元気がする。震災によつては泊まれなくな、友達もいるが、震災によつて出会えた人達もたくさんいる。

もし、どこかで同じような事故がおきたら、その時は私が元気と勇気をつけてあげたい。

匿名希望

東日本大震災から4年と、9ヶ月が経ちました。時の経過と共に、日常を取り戻す事ができている人も多い中、まだまだ困難な状況の中復興への長い道のりを覚悟しながら、頑張っている人もたくさんいると思います。

私は、3月11日に地震がありて大さいやれでひっくりました。地震がありてからすぐ津波がきて、多くのきれいな人が出て家族や知り合いの人を失った人や多くの命がなくなって震災は悲しい事だと思います。

また、小高区など住めない地域がありて元々のこの地域に住んでいたのに、急に住めなくなってしまった今までとは変わった生活をして、不便な事があると思うので、少しでも早く元のように生活できればいいといいます。

復興は、ひととんどんしていると思います。これからも、復興が少しでも進んで、住設住宅に住んでいる方々が少しでも早く自分の地元に帰って、他の地域の方々も豊かな生活をおくれればいいと思います。

氏名 佐藤 翔太 年齢 12 歳 職業・学校名 石神第二小学校

2011年(平成27年)3月11日午後
2時46分あの出来事がおこった。宮城県沖
を震源とする地震が発生し岩手、福島、茨城
など広い範囲で大きな被害が出た。その時
自分はまだ1年生だった。今は、もう6年生
になりもうすぐ卒業だがあの日のことは今で
もおぼえている。東日本大震災後の今の状況
は、震災後の約3か月後には一ヶ月おきの大あ
げが始まり生鮮介つおの水あげ日本一を経て
ていく。だが、いいこともあれば悪いことも
ある、それは、今だに自分自身の家に帰れて
いない人がいるということだ。震災後には、
日本各地から多くのボランティアが集まりさ
まざまな活動によつて被災地の人々を支えて
くれたおかげで被災地はもどりつつあります
。そして、今後進むべき未来は震災によつ
て被害を受けた被災地の全ての復興をいちは
やく進めるボランティアの人達の力もかりて、
被害を受けた被災地を豊かなくらしめてさる
ようになることが大切だと思う。

氏名 高橋 紅音 年齢 12歳 職業・学校名 石神第二小学校

平成23年3月11日に起きた、東日本大震災から、もうすぐ4年が経とうとしています。

震災直後は、転校までしなきゃいけなかつた、すごく大変でした。震災は嫌な出来事だけ、良かれた部分もあります。それは、私が所属しているのみぞうまいレー、というチームができたことです。作り上げて4年で全国大会にも行きました。でも、各小学校でもチームを作りはじめるので、チームがなくなってしまうかもしないのかすごく残念です。

福島県の今後進むべき未来は、福島県の小学生の体力を上げるために、外で遊ぶ施設などをもち、と作、たほうがいいと思います。

私達6年生は周りから期待されている年代だと思うので、私達も、もっとかんばっていきたいと思います。私達小学生でも、できることはあると思うので、私達は、これからも精一杯かんばって生きていきたいと思います。

氏名 二上 雄大 年齢 12歳 職業・学校名 石神第二小学校

東日本大震災では、地震と津波に加えて、福島県にある原子力発電所の事故が大きな被害をもたらしました。大量の放射性物質がもれ出したため、政府は周辺の市町村に避難指示を出しました。放射線への害への不安から、多くの人々が自主的に避難したり、農作物や水産物が売れにくくなったりするなどの被害が生じました。復興のためにまず放射線の害をなくさなくてはならないので、政府は、放射性物質を取り除く除染作業を進めました。

また、人々の健康管理や農作物の放射線検査なども行うことになりました。こうした取り組みによって、避難先から帰れる地域も出てきました。

しかし、原発事故の処理を終わらせて、放射線への不安を取り除くには、まだまだ多くの時間と努力が必要です。以前の生者を取りもどしたいという人々の願いをかなえるために、国を挙げて取り組むための政治の大改革が改せんされた未来には(い)ています。

氏名 武藤一輝 年齢 12歳 職業・学校名 石神第二小学校

ぼくは震災の時、家族と山形県の鶴岡市に避難しました。南相馬市の学校は、いつ始まるかわからず、とりあえず鶴岡市立第一南小学校に通っていました。仕事のために南相馬に戻った両親に代わり、祖父母といっしょに暮らすことになりました。両親とは月に二回ぐらいしか会えなかつたので、両親が南相馬に戻るときは、毎回泣いて見送っていました。その後、約一年半くらいで南相馬に戻り、石神第二小学校に通うことができました。

ぼくが復興やこれからの中未来について思うのは、人口減少が進んでいると思うので、人を集めることが大事なのではないかと思ってます。少しすこいいから、みんながすこと住みたいと思うような町づくりをしていくほひいです。自分たちにものくることが出来なら、それをやつてきました。

氏名 中野 流城

年齢 12 歳 職業・学校名 石神第二小学校

3月11日に帰りの時、「グラグラッ」と揺れて、地震だ!!! 24人全員の下へ転がって、その時まだ1年生だったのに、すごく恐怖でおしゃれになりました。少し地震が収まるとい、先生のかげ声で「せ11にあがらとびだして、校庭に出て、もかえが来るまで王ていました。その時みんな泣いていました。僕は泣きませんでした。その後も地震が続き、けつこうな時間かけた後、や、と地震が収まり、安全かと思、たら、津波が来ました。

11月11月11人の家が津波で流されて大変でした。

これから日本のために、僕たちは6年生や子どもたちが日本の復興のために、ボランティアなどに大人になつたし参加して、でましたけによりよ1号にしてために努力したりです。そして、多くの福島県や日本に直して、みんながすやすし、放課後になく、子どもたちが外で元気で、はしゃ遊んでる姿を、地域の人たちに見せたいです。

氏名 柴田 健叶 年齢 12歳 職業・学校名 石神第二小学校

ぼくは、3月11日の東日本大震災の時は、
小学校1年生でした。

まだ、その時は1年生だったのですが地震がお
きた時は何が何だか分からませんでした。で
も、ほかの地域ではunamiがおじよせてきて
いたりして大変だったことが少しずつ分か
てきて、今では災害で亡くなった人が何万人
もいて、家がなくなったりなどもたくさんい
ることが、悲しく、ひさんなことだとよくかく
思えるようになりました。

震災によって、この地域をはなれていく人
がたくさんいて、ぼくはひなんせずに同じ小
学校にいたけど、前の友達がたくさんいなく
なっていたので人が少なかつたけど、今はた
くさんの人がもどってきて、行事もさかんに
なりしてきました。

それでも、前は開かれていた行事が今では
開かれてい物のまだたくさんあるので、ぼく
たち1人1人が復興に参加していくことが大
切だと思います。